

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-203221

(P2010-203221A)

(43) 公開日 平成22年9月16日(2010.9.16)

(51) Int.Cl.		F 1		テーマコード (参考)	
EO2F	3/02	(2006.01)	EO2F	3/02	B
AO1B	1/02	(2006.01)	AO1B	1/02	

審査請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2009-83411 (P2009-83411)
 (22) 出願日 平成21年3月5日 (2009.3.5)

(71) 出願人 509049654
 ユージックス株式会社
 京都府宇治市伊勢田町中山4-9-3
 (72) 発明者 瓦谷 美保子
 京都府宇治市伊勢田町中山4-9-3

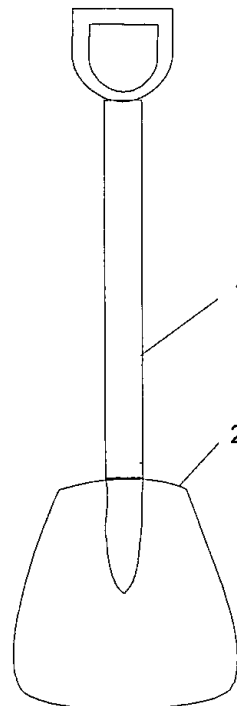
(54) 【発明の名称】 救出用スコップ

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】災害時の救助等において通常のスコップやシャベルを用いると金属部や鋭部により救助者の人体を損傷する危険があり、作業は慎重に行わざるをえず、そのために、作業の速度が遅れてしまったり、作業を慎重に行っても金属部により損傷することがあった。植物を掘り出すときも同様である。

【解決手段】土砂を掘り起こすため十分な強度を持った金属のスコップ1やシャベルの本体またはカバーまたは着脱器具に弾性体を用いて金属部や鋭部から保護することで人体や植物を傷つけることなく救出したり掘り出したりする。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

人体や植物が傷つかないように金属製のスコップまたは金属製のシャベルを十分な厚さと強度とやわらかさを持った弾性体で覆った救出用スコップまたは救出用ショベル

【請求項 2】

人体や植物が傷つかないように通常のスコップまたはショベルを覆えて留めて用いられる十分な厚さと強度とやわらかさの留め具を持った磁性体入り弾性体の救出用スコップカバーまたは救出用ショベルカバー

【請求項 3】

人体や植物が傷つかないようにスコップまたはショベルに十分な厚さと強度とやわらかさの弾性体を留め部で着脱できるようにした救出用スコップまたは救出用ショベル

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は災害にあった人を救出するため、または、植物を傷つけずに掘り出すために弾性体を用いたスコップまたはシャベル、または、磁性体入り弾性体よりなるカバーを用いることで傷つけずに救出することを目的とした救出用スコップまたは救出用ショベル、及び、救出用スコップカバーまたは救出用ショベルカバーに関する。

【背景技術】**【0002】**

従来では災害時の救助等には通常のスコップやシャベルが使われており、人体を傷つけてしまう恐れがあるため、慎重に時間をかけて掘り進めていく必要があった。また、金属部分により損傷してしまうこともあった。また、スコップが掘る時の音を軽減するためスコップに弾性体を貼り付けるものがあったが、断面が金属であるため損傷免れ得なかった。また、保存用のカバーがあったが、そのままつけたまま掘るようなものではなく、ぐらついたりすぐに外れてしまうものがある。また、プラスチックでできた雪かき用のスコップがあった。

【特許文献 1】特開 2005 - 076248 号公報

【特許文献 2】登録実用新案第 3089297 号公報

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0003】**

本発明は、災害時の救助等において通常のスコップやシャベルを用いると金属部や鋭部により救助者の人体を損傷する危険があり、作業は慎重に行わざるをえず、そのために、作業の速度が遅れてしまったり、作業を慎重に行っても金属部により損傷することがあった。そこで、スコップやシャベルを弾性体で保護することで、人体に触れても損傷することがなく、そのことにより、安心して作業を進めることができ、その結果として救出の速度を早めることができる。着脱式の救出用スコップや救出用シャベルでは、弾性体が劣化しても即座に換えることができ、また、救出時は弾性体を付けて作業し、通常時は外して作業することも可能となる。これは植物の掘り起こし等についても言える。

【課題を解決するための手段】**【0004】**

本発明は土砂を掘り起こすため十分な強度を持った金属のスコップやシャベルの本体またはカバーまたは着脱器具に弾性体を用いて金属部や鋭部から保護することで人体や植物を傷つけることなく救出したり掘り出したりすることができる。

【発明の効果】**【0005】**

本発明はスコップやシャベル本体またはカバーまたは着脱器具に弾性体を用いることで人体や植物を傷つけることなく救出したり掘り出したりすることができる。また、着脱式の救出用スコップや救出用シャベルでは、弾性体が劣化しても即座に換えることができ、

10

20

30

40

50

また、救出時は弾性体を付けて作業し、通常時は外して作業することも可能となる。また、強度の高いスコップやシャベルに弾性体を用いるので土砂を掘り出しやすく、安易に壊れず救出のために急いで大量の土砂を掘り起こすことができる。弾性体には非粘着性素材をコーティングすることで摩擦を減らして用いることもできる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0006】

金属製のスコップまたは金属製のシャベルを人体や植物が傷つかない程度に十分な厚さと強度とやわらかさを持った弾性体で覆う構造とする。

【0007】

通常のスコップまたはショベルを人体や植物が傷つかない程度に十分な厚さと強度とやわらかさの磁性体入り弾性体に留め具を持ったカバーで覆い、磁性体と金属が引き付ける力と弾性体によりずれないようにし、留め具にでしっかりと固定して用いれる構造とする。

10

【0008】

スコップまたはショベルに人体や植物が傷つかない程度に十分な厚さと強度とやわらかさの弾性体を留め部で取り外しできる構造のスコップまたはショベルとする。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】本実施形態に係る弾性体で覆った救出用スコップの構成図

【図2】本実施形態に係る弾性体で覆った救出用ショベルの構成図

20

【図3】本実施形態に係る弾性体の救出用スコップカバーで覆ったスコップの構成図

【図4】本実施形態に係る弾性体の救出用スコップカバーで覆ったスコップ頭部の断面図

【図5】本実施形態に係る着脱できる弾性体を用いたスコップの構成図

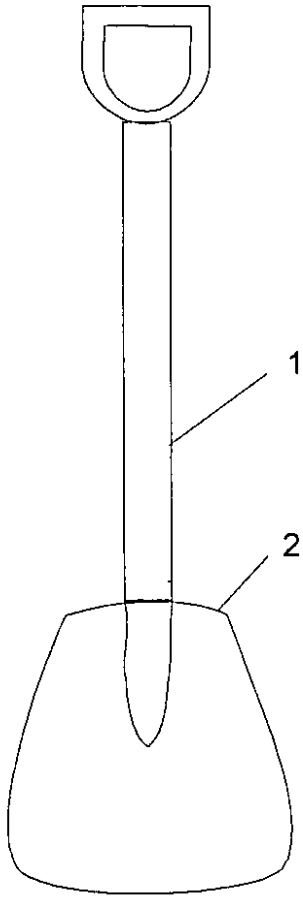
【符号の説明】

【0010】

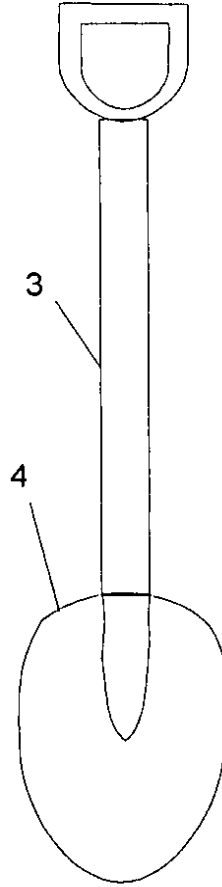
- 1 スコップ
- 2 弾性体で覆った救出用スコップ頭部
- 3 ショベル
- 4 弾性体で覆った救出用ショベル頭部
- 5 磁性体入り弾性体の救出用スコップカバー
- 6 留め具
- 7 留め具穴
- 8 着脱式スコップの留め部
- 9 弾性体の留め部
- 10 着脱できる弾性体

30

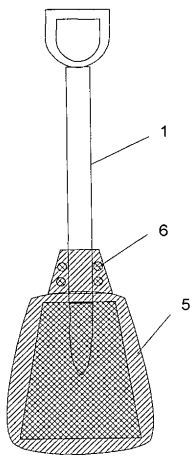
【 図 1 】



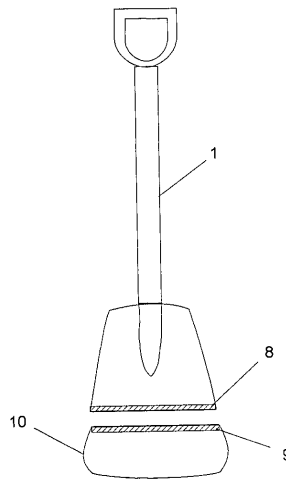
【 図 2 】



【 図 3 】



【 図 5 】



【 図 4 】

